

横浜戸塚バプテスト教会は連合立神学校である東京バプテスト神学校を積極的に支援しています。この協力関係は、伝道者養成や信徒教育を通じて教会形成を促進する上で欠かせないものです。

私自身、東京バプテスト神学校の公開講座を受講し、多様な講師陣による講義を通じて幅広い学びを得ています。2024 年度は大西晴樹先生による講義で、イギリスバプテスト史を学ぶことができました。バプテスト史は私達の教会がどこから来たのかを知る重要な学びで

あり、そのような機会が与えられたことを感謝致します。このように信徒が手軽に参加できる公開講座の仕組みは、信仰生活を深めるための大きな助けとなっています。

横浜戸塚バプテスト教会では、神学生の教会実習を受け入れ、実践的な学びと交わりの場を提供したこともあります。このような取り組みは、牧師不足が深刻化する昨今において、伝道者養成の重要性を再認識させるものです。さらに、神学校献金の一部を東京バプテス

ト神学校に直接献金することで、神学校運営への支援を行っています。この献金は授業料の低廉化にも寄与しており、多くの人が学びやすい環境を整える助けとなっています。

東京バプテスト神学校が担う伝道者養成は、日本の教会全体にとって重要な課題です。横浜戸塚バプテスト教会としても、この働きを応援し続けることが、福音宣教の使命達成につながると確信しています。

2024年度 後援会献金報告

● 後援会献金（個人）実績 …… 137名・157件 合計2,242,700円（前年度1,415,878円）

パク・ジファン 芦沼光雄 芦澤邦明 安原信彦 伊藤世里江 伊藤典子 井伊肇 井上政博 吉岐基子（2） 稲垣久美子 稲垣誠 奥谷恭子 奥田厚子 押美香子 岡村伸一 岡村直子 岡田千尋 岡田富美子 岡田利男 加藤徹 角田秀明 角田芳子 梶原純一 梶原博文 岸田梢 岩瀬礼 菊地正弘 吉原正子 吉田壽宏（2） 宮下めぐみ 宮西日出子 熊谷真吾 熊澤コト 古根村聖子（2） 五島裕紀子 高良研一（2） 高柳美枝子 鴻野清美 今給黎眞弓 佐々公子 斎藤美津栄 細井留美 坂元幸子 坂本献 作田公重 鮫島泰子 山形昌美 山口慎子 山崎清美 山川許子 山田伊智郎 山田三千江 山田洋子 山本久仁子 山崎美奈 四津明美 柴野一紗 若林一枝 守屋まゆ美 秋山信夫 秋山純子 十時節子（3） 勝俣昌也 小勝琢生（2） 小林花穂 小林曜 松村誠一 松田朝子 松田美奈子 沼尾有紀子（3） 上原克也 上野仁美 城倉由布子 常廣澄子 森下ひろみ 森下薫 深澤和子 神山武 水畑美奈子 瀬戸口早苗 清岡道子 生明伊世子（21） 西方泉 青山祐一 青木周一 青木節子 石垣茂夫 川勝高宏 川平朝清 浅野陽子 前村俊一 村上真由美 大下仁 大江満知子 大野優子 大矢公子 池内淳 竹内正幸 中澤なつみ 鳥飼好男 辻真理子 鶴ヶ谷芳昭（2） 鶴野博子 田場上 田中牧子 渡部富夫 渡辺禎子 都丸利子 島田洋子 東方敬信 藤井あや子 藤原俊子 藤田尚子 藤澤鈴子 日裏綾子 白井由季子 飯田みか 樋口紀 富田直美 富田直美 富田信恵 福本綾子（4） 文廷翼（2） 平井純子 米本裕見子 保木はるみ 保里昌彦 豊永義典 北野弘子 木原成記 木原道雄（2） 木村まどか 門田友也 林健一 鈴木恵子 澁谷和美 縣洋一

● オンライン月々支援 …… 42名

小牧由香 村上千代 林雄植 奥田稔 蛭川潤子 美園和彦 城倉啓 秋山信夫 山本恵子 藤井秀一 小川紀良 岡村直子 臼井愛子 中根 淨 松田俊介 高地輝夫 篠松次郎 山岸 明 加山彰一 加山礼子 上原一晃 鈴木早苗 石井規之 田中宣之 渡辺朋美 川勝高宏 上田みずほ 松田健太郎 足立智幸 舩田栄一 小林亜矢子 新井朋美 井馬佐紀子 大須賀真人 勝俣昌也 酒井和恵 鬼澤寛 菅井善一 堀端洋一 萩原永子 村松理恵子 諏訪泰子

● 2024年度 教会・集会献金実績 …… ※詳細は神学校ニュース5月号に掲載しました。

合計 3,365,616円（前年度3,625,308円）

東京バプテスト神学校の働きを支援するために、あなたも「後援会」にご入会ください

1. 定期支援

個人会員：年額1口 ¥5,000 何口でも歓迎いたします
※後援会に入会すると受講料が半額になります（年会費は1年間有効）。

2. 自由献金支援

支援額も、支援回数もご自由にお決めください。

郵便振替口座

00210-8-75658

東京バプテスト神学校後援会

※専用払込票をご希望の方は、メールにてお申込下さい。



東京バプテスト神学校 後援会

No.39

Homepage ▶ <http://tbts.jp> Mail ▶ seminary@tbts.jp

〒112-0012 東京都文京区大塚1-1-18 茗荷谷キリスト教会内 03-3947-5141
発行日：2025年7月24日 発行者：東京バプテスト神学校後援会 秋山 信夫

巻頭言

神様に敷かれていた学びの道

いいだ
飯田 みか

（百合丘キリスト教会）



2022年、「合唱」の公開講座があると教えてくれたのは教会の友人でした。場所が東京第一バプテスト教会と聞いて「近い！ 行きたい！」という思いが湧き上がりました。なぜ始めたの？と問われて「やりたかったから」ではなく「近いから」と答えるのは自分でもどうかと思うのですが、正直、それが理由でした。

ですが受講してみると、中身の濃さに圧倒されました。授業では、歌い方に、顔の表情に、自分の信仰を込める技術を学んだ気がします。私には難しい曲も多かったのですが、毎回必ず学びの実感がありました。毎週土曜日、私は自転車を10分余り走らせて授業に通いました。

2023年、会場が大井キリスト教会に変わると知りました。遠い。やめようか……、迷いました。けれども、それまでの学びの豊かさを思うと、継続したい気持ちが勝りました。もしも最初から大井教会が会場なら、私は受講しなかったに違いありません。

その年に歌った「私を覚えて～最後の

食卓～」は練習のたびに涙ぐむほど心を揺さぶられる曲で、年度末の演奏会で歌った時には本当に涙がポロポロ流れて困りました。

2024年、「指揮法」が始まると知りましたが、技術も音楽性も乏しい私がなぜ？と思いつつの奉仕ですから、このチャンスを逃すわけにはいきません。すぐに申し込みました。今度は「ソングリーダの奉仕のため」という、真ッ当な理由があります。指揮法の学びは初めてではありませんでしたが、これほど実になるのは初めてでした。

指揮は、自宅での練習が必須です。生徒は6人という少人数だったので、授業内でそれぞれが「こういうところに悩んだ」「家族に見てもらって、こう指摘された」などと話す余裕がありました。私は初めて、私から見ればとても上手に見える人も、こんなにも努力しているのかと気づきました。練習には多少なりとも時間を使います。先生の「それだけの時

間をかけるのにふさわしい方を、私たちは礼拝している」という言葉は、練習の励ましになりました。

百合丘には私が大好きなプロの歌手がいます。彼女はとにかく誉め上手なのですが、以前の私のソングリーダーぶりは褒めようがなかったのでしょうか。「立ち姿がよかった」「表情がよかった」と指揮以外のことを褒めてくれたものでした。その彼女が初めて「指揮」を褒めてくれ、本当に嬉しかったです。指揮法が2024年度で終わるのは、とても残念でした。

2025年、私は「ソルフェージュ」と、「礼拝学I（賛美歌学）」を取りました。どちらも初めての学びではありませんが、学び直しの意義を実感しています。

「近いから」という理由から始まったわけですが、道筋は最初から神様に仕組まれていました。この道がどこに向かっていくのかわかりませんが、神様を見上げ、楽しみながら、心を込めて歩いて行こうと思っています。

500円からご支援できます！

後援会の会費が
月々500円から ご支援いただけるようになりました。



ホームページの「後援会月々支援」のページで、クレジットカードを使ってご支援いただけます。

スマホやタブレットからもお手続きができますので、ぜひ皆様のお祈りとご支援をお待ちしています。

▲ **今すぐアクセス！** <https://tbts.jp/online-shien/>（後援会月々支援ページ）



万事が益となるように共に働く主

文 廷翼

(日本バプテスト立川キリスト教会牧師)

私は、東京バプテスト神学校に入学する前までは、主に韓国の医療機器を日本に輸入し、日本の病院に普及するビジネスを展開して参りました。一時期は事業が非常に繁盛し、新宿に自社ビルまで建て、NHK テレビの特集番組で紹介をされたりもしました。38歳の若さで突然社長となり、急成長したのがすべて自力だったような錯覚に陥り、私は傲慢で生意気でした。元々慶応大学に留学のために来日し、大学院まで10年近くを勉強ばかりしてきたので、経営の経験は勿論、普通のサラリーマン生活もして来なかった自分を100%、神様が導いて来てくださったにもかかわらず、自分の能力のように傲慢だった私を、神様はそのまま放置しておかれませんでした。間もなく、取引先の上場会社の倒産により、売り上げ代金として頂いていた手形がすべて不渡りとなって、連鎖的に倒産し、私は借金だらけとなってしまいました。

倒産のショックで相手の会社の社長は癌で亡くなり、私もストレスで病気となって入院せざるを得なくなりました。痛みが激しくなり、この苦痛を持って生きることよりは、むしろ死んだ方がましだと考えたことさえありました。

その時、神様が夢の中で私に強く仰せられました。「このまま君がわたしのところに来て私が喜んで受け入れると思うか？ わたしは君を知らないというだろう。もっと神の国のために働き、また人のためにも何か益となることをしてから来るべきではないか。」と叱られました。確かにそれまで私は幸いにも成功の連続で自己本位の人生を生きてきまし

た。そのすべてが神様の恵みだったのに、自分の努力の結果だと錯覚していたのです、その時から、私は今までの自分の罪を悔い改め始めました。また、傲慢だった自分が徹底的に謙遜な人間として生まれ変わらなければ自分の罪を絶対に赦して頂けないということも自省しました。自分を支えてくださった神様と周りの人々のために何をして差し上げてきたのか？いくら考えても本当に何もありませんでした。本当に虚しく、恥ずかしく思えました。それで決心したことは、これから残りの人生を神様の御栄光のために、そして御言葉を知らない人々に、主の御愛と福音を伝えるためにお捧げしようと決断したのでした。

すると自分の人生が変わってきました。絶望が希望に、悲しみが喜びに、食欲が思いやりに変化して来ました。それで、死から救ってくださった主に感謝する気持ちで伝道者になる覚悟をして、アメリカの神学校に入りました。その後、紆余曲折を経て、神様の憐みと御助けで負債もなくなり、何とか生活ができるようになりました。

ちょうどその時、神様が私に与えてく

ださった使命が、“天国パーティー”と呼ばれるホームレス伝道でした。それ以降、私は15年間、今でも毎週公園や町でホームレスの兄弟姉妹に福音と御言葉を宣べ伝えております。ホームレス伝道は簡単な働きではありませんが、本当にやりがいがあって、毎週天国パーティーに行く喜びで、このような働きを任せてくださった神様に感謝しています。

その後、神様は私に東京バプテスト神学校を卒業させ、百合丘教会での教会生活を学ばせ、調布バプテスト教会で牧会を担わせ、現在は立川教会で楽しくやり甲斐のある牧会をさせて頂いております。

ハレルヤ！私のこれまでの人生、父なる神様の御導き、御子イエス様の御恵み、聖霊様の御助けに賛美と感謝をお捧げ致します。

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」

ローマ8：28



2025.4.20 イースターの日にて

みんなの聖書プロジェクトが始まります

教務主任 城倉 啓 (泉バプテスト教会)



「みんなの聖書プロジェクト」は、素人の・素人による・素人のための聖書翻訳プロジェクトです。

すでに聖書学者・専門家の手による多くの優れた日本語訳聖書があります。今さら新しい日本語訳が必要なのでしょうか。そう、今までの翻訳と同じようなものであれば不要でしょう。

すべての翻訳聖書は一つの翻訳例しか提示していません。「みんなの聖書」は、同じ聖句について二種類の翻訳をウェブサイト上に同時に提示します。

この二種類の翻訳は正反対の性格をもっています。一つは極端な直訳調であり、すべての単語を訳出し、しかも素朴な日本語を用います。これを「素訳」と呼びます。

二つ目は極端な意識であり、日本語が苦手な人でもわかりやすいように訳し、しかもどんな人にも不快感を与えない包含的な日本語を用います。これを「超訳」と呼びます。

読者は素訳をみて聖書原文の素材を知ります。それと同時に素訳と超訳を見比べて、「聖句を多くの人と分かち合いたい」という翻訳者たちの願いを知ります。そしてギリシャ語やヘブル語・アラム語の知識が無くても、「聖書に何が書いてあるのか、あなたはそれをどう読むのか」について思いめぐらす旅を始めることとなるのです。

2025年10月1日にウェブサイトにて素訳・超訳を掲載する予定です。どうぞ神学校のウェブサイトを覗いてください。創世記とマルコ福音書から始めて毎月更新していく予定です。そして2030年までに旧新約聖書66巻を訳了できればと願っています。

わたしたちはこのプロジェクトの継続のために寄付を必要としています。どうぞご協力ください。

ヘブル語チーム

村上 眞由美

(相模中央キリスト教会)

ヘブル語の翻訳は、今のところ楽しさが55%苦しさ45%というところですよ。初級レベルなので1単語動詞などにすぐに引っかかってしまい、「暗号解読」に失敗しています。「今度こそ」

と思うのですが、また引っかかることの繰り返しです。そんな中でも行間から立ち上る神のみ言葉に思わず襟を正したり、生きる勇気をいただいたりしています。また一節一節細かく読むことにより、視聴覚教材に影響された思い込みが正されアップデートしていくのが実感できています。ヘブル語聖書の世界は、牧畜のイメージが強いですが、思いのほか農業に関する記述が多いと翻訳作業を通して感じています。私は日本語教師なので、ヘブル語聖書という新しい言語世界が開けていくのが何よりの喜びです。

迫り来る老化現象のため、プロジェクト終了まで健康と安全が守られますようご加祈いただければ、幸いです。



超訳チーム

高橋 周也

(豊前キリスト教会)

私はかつて聖書を神の言としてだけしか知らず、聖書から外れて世界や自分を理解してはならないのではとの抑圧感に縛られていたものでした。ゆえに、聖書本文そのものは好きだが解説や釈義は嫌い（信仰者として受け入れてよいものなのか不安になったり反発を覚えたりする）の感覚を持っていたものでした。しかし、やがて神学を学び、聖書は、さまざまな人の手を介して記され継承されたこと、神と人とのやり取りの足跡、先人たちの語りの声でもあることを知った時、聖書はもう一度、私を真の神の自由へとほどいてくれる書物となったように思います。そんな私も今日の時代世界に生かされている人間の一人。超訳は、自分が本当に幸いと思える聖書の読みへの希望の道です。チームの仲間とのであひも嬉しく、言葉選びに苦悩しつつワクワクして楽しんでいます。

